

## そこは誰の席ですか

中 三

先日、私が電車に乗っていた時のことです。車内の席はほとんどうまっていましたが、私は目的の駅が遠かったため、空いている席を見つけて座りました。しばらくすると、一人のスーツ姿の男性が乗車しましたが、席がないので立っていました。私は最初、別にその人に席をゆずる必要はない、私は遠くの駅に行くから座っていていい、と思っていました。その後ずっと痛そうな顔で腰をさすその人を見て考えは変わりました。腰を痛めているその男性に席をゆずるべきだと思いました。しかし、私も最初そう感じたように、一見普通のサラリーマンです。お年寄りや妊婦さん、けがをしている人などに席をゆずるよりも、何倍も勇気がいると感じました。だから、声をかけずにさりげなく立ってみました。すると、その男性は席が空いたのを見て表情が明るくなりました。その様子を見ていた私は少し嬉しくなり、心の中で

「どうぞ。」と思いました。そしてその男性が一歩席に向かって歩いた時、驚いた顔をした後少しほほ笑み、元の場所に戻ってしまいました。不思議に思ってたっきの席を見ると、私が席を立った時に丁度乗車した、赤ちゃんを抱いている若い男性が走り込んで座っていました。私は良いことをしたはずなのに、何故かモヤモヤした気分になりました。そして、目的の駅に着くまで、向かい側でつらそうに立っている男性が視界から離れませんでした。

このような経験をして、そのことについて私は考えました。私が空けたあの席は、誰が座るべき席だったのだろうか。しかし、その答えは私には分かりませんでした。それは、誰が優先かの順位はつけられないし、つらい、苦しいといった感情の強さは、見ただけで判断することはできないからです。私の電車での経験で最初に乗車した、腰を痛めている男性もそうです。一見健康な人に見えるので、誰にも席をゆずってもらえませんでした。表情などをよく見ない限り、腰の痛みなんて気付きません。だからこそそういった人のためにも、

一人一人が周りをよく見ることが大切だと思いません。それは、自分のことだけでなく周りを気にかけることで、隠れた感情に少しでも気づくことができると思うからです。

優先席については、最近は電車やバスにベビーカー用のスペースがあったり、電車では優先席付近の床やつり皮の色が変えられたりと、しっかりとそのスペースがつくられています。今の車内では、それは必要であると思います。しかし、それがベストだとは思いません。最も良いのは、全席優先席であり、全席一般者の席であるという状態に車内がなることです。互いにゆずり合い、優先するべき人は誰かをお互いに考え、そのために周りを見る、ということが将来実現できるような考えることが必要だと思えます。

少し勇気を出せば交わせる会話、

「どうぞ。」

「ありがとう。」

これは一瞬のやりとりです。しかしこのたった一瞬がお互いの良い気持ちや温かい気持ちをつくり、そしてこの一瞬で思いやりや優しさが見えるのだ

と思えます。そして、電車に乗っている人たちはそれぞれ他人同士かもしれないませんが、一人一人を同じ人間としてみれば、このゆずり合いの動作は誰でも自然にできることだと思えます。

電車に乗っただけで、さまざまな人の心のあり方や感覚が見えます。それは人それぞれ違うけれども、だからこそ周りを見ることが大事であり、その後に行動を起こす勇気というものが必要なのだと思えます。また、それは電車などだけでなく、公共の場全てにおいて言えることだと私は思えます。

